

愛知医科大学学報



第39回厚生会展入選作品「薄暮」
(写真提供 消化器外科 大澤高陽助教)

＝ 第165号 ＝

2022. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ	2
役員・評議員の改選	7
創立50周年記念事業募金	8
叙勲の榮譽	10
令和4年度学年暦	19
令和4年度入学試験開始	20
日本造血細胞移植データセンター	22
教育・研究最前線	46
Smile ～スマイル～	48



— 創立50周年を迎えて、 記念事業と今後の研究 —

理事長・学長 祖父江 元

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、お元気で新しい年を迎えられていることと存じます。昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に明け暮れた1年でした。大学・病院ともに全力で対応した毎日だったと思います。皆さまの努力のお陰で、なんとか乗り切ってこられたと思います。この場を借りて、改めて心より感謝申し上げます。また、今年はおミクロン株の蔓延で大変な第6波を迎えております。なんとか早く収束に向かうことを願っております。

さて、今年はいちご愛知医科大学創立50周年に当たります。11月3日の開学記念日を中心に、種々の記念事業を予定しております。先人のこれまでの努力に感謝し、本学の今後の発展に向けた1年になればと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。この創立50周年の記念事業と今後の臨床研究について少し述べます。

1. 愛知医科大学創立50周年記念事業について

創立50周年記念事業実行委員会を立ち上げ、募金（記念事業）、記念誌、広報、式典を中心に実施します。

(1) 募金（記念事業）

50周年記念事業は、募金事業という意味を含んでおりますが、「教育・研究・診療の基盤整備事業」として、10項目を挙げております。このような記念事業の提案は、創立20周年にも出されたことがあります。

今回の記念事業の第1は、愛知医科大学メディカルセンター（分院）の開院です。令和3年4月1日に開院したことは皆さまご存知のことと思います。大学分院ならではの質の高い医療を提供して地域と共に生きる中核病院として、また、若い医師を育てる「教育病院」として拠点化していく予定です。令和5年3月の365日2次救急開始に向けて常勤医師の大幅な増員や教育を含めた専修医を配置してい

たいと思っております。これまでの診療状況は徐々に活気が出てきています。

第2は、メディカルアイセンター（仮称）の設置です。開設38年目のメディカルクリニックは、初期の目的を達成し、最近では赤字体質が進行しており、抜本的な改善が望まれていました。現在の診療体制等を見直し、メニコン社との産学連携寄附講座（近視進行抑制）と眼科日帰り手術ラボを中心とした時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点として生まれ変わります。

第3は、日本造血細胞移植データセンターの移転と連携大学院の開設です。これは全国の350施設の患者・ドナーデータ12万例を集積するデータセンターを連携大学院として本学に令和4年1月に移転開設しており、国と学会の支援を受けて、更に発展を期待するものです。

第4は、医心館セミナー室の拡充です。特に国家試験を控えた学生の更なる学修環境の拡充を行います。

第5は、スターボックスの誘致です。地域交流や憩いの場に幅広く利用いただくことを目指しています。

第6は、学生レストラン「オレンジ」の改修です。食事以外の時間の自習などの場として利用できるよう大規模な改修工事を進めます。

第7は、リハビリテーション医療の充実です。急性期・回復期リハビリや超高齢社会の生活リハビリのニーズに応えるため、昨年7月にリハビリテーション医学講座を開設、今後リハビリ治療技術の基礎・実践・高度化の推進など、リハビリ医療・教育の充実に取り組んでいきます。

第8は、がん医療の推進です。本院は、平成31年4月1日に「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、令和元年10月に「がんセンター」が設置されました。愛知県がんセンターとの包括連携、がんゲノム医療の推進やがん診療部門を統括する多職種連携

サポート推進など、がん患者受入増に向けて体制づくりを推進していきます。

第9は、看護学研究科博士課程設置構想です。博士課程（Ph.D.コース：Doctor of Philosophy及びDNPコース：Doctor of Nursing Practice）を設置し、高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成します。日本の高度看護実践のトップランナーを目指します。

第10は、先進医療研究棟構想について50周年を契機にスタートさせます。「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」、「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」、「地域医療・地域貢献の促進」などの五つの目標を掲げ、その実現に向けた先進医療研究棟構想プロジェクトを発足させていきます。愛知医大マスタープラン構想の実現に向けて検討をスタートします。

その他、現在進行中の働き方改革、救急体制・救急教育改革、医師養成教育改革、地域医療改革などを更に進めていきたいと思っておりますが、まずは記念事業として上記の10項目を挙げています。

(2) 記念式典事業

令和4年11月3日（木・祝）に、名古屋観光ホテルにて式典・祝賀会を行います。同窓の先生方を中心に、学外からも多くの方々に集まっていただく予定です。記念講演は、ノーベル賞受賞者で名古屋大学教授の天野浩先生を予定しております。

(3) 記念誌事業

記念誌の発行としてまずは写真集や部局史を予定しております。

2. 創立50周年を期して、今後の臨床研究の流れについて

医学研究、特に臨床研究の流れは、この10～20年の間に大きな転換が見られます。今までは、例えば動物実験などで得られた成果を人に応用するいわばbench to bedの流れ、仮説を立てて検証する流れが主流でしたが、臨床症状や、検査結果や、治療介入そのものが研究のデータになり、ビッグデータを仮説抜きでAIや数理解析により新しい成果を生み出すという大きな流れが見えてきています。

これはもともとゲノム研究で始まったものですが、今や医学・生物学の多くの領域に広がってきており、コホート研究やレジストリ研究が今までにない重要度を増してきています。多くの患者からの臨床症状やゲノムや血清や不死化細胞などの継時的集積が重要な研究基盤になってきています。それには、時間のかかる患者データの蓄積を、多施設で、チームを

作って、データマネジメントやセキュリティや倫理などを検討しながら進めることが必要です。最近では、レジストリ研究は、治療や創薬開発にも大変重要であることが見えてきており、AMED、厚生労働省なども、その重症性を認識してきており、企業なども人由来のビッグデータやバイオリソースの重要性を大変重要視するようになってきています。

翻って本学の中を見てみますと、以前からのビッグデータの蓄積が多く存在しており、特に最近になって多施設共同研究の形でいくつかの論文化がなされてきています。いくつかの例を挙げてみますと、例えば、加齢医科学研究所は、30年以上に亘って東海地域の神経疾患の死後脳を集積しており、すでに6,000例以上となっており、特にある種の神経変性疾患やプリオン病などでは、その集積数の多さで世界有数の位置付けになっております。最近では、Nature誌にある種の神経変性疾患の病原タンパク質の分子構造変化の重要な研究が2編程発表されましたが、世界の10数カ所の共同研究機関の中に、本学の加齢医科学研究所が入っています。

呼吸器内科では、肺胞タンパク症という極めて稀な疾患のバイオリソース集積があり、最近2編のNew Eng J Med誌に治療標的に繋がる共同研究成果が発表されましたが、本学の呼吸器内科が重要な位置を占めています。中検病理の研究室は、前立腺癌を中心とする泌尿器系がんの集積では我が国のトップクラスで、集積例を元に共同研究を進めており、最近では、Lancet Oncol誌、Nature Comm誌に重要な共同研究成果が出ています。

また、上記の日本造血細胞移植データセンターから、毎年50編以上の共同研究論文成果が発表されています。今後、AIを使った解析などを進めるとのことで期待したいと思えます。更に、研究創出支援センターの部門として、最近、がんを中心とするバイオバンクが作られ、活動を始めています。ここには長久手市との共同のブランディング事業の検体も保存されており、今後の発展が期待できると思えます。このようなバイオレジストリは、実は国立大学等では意外に育っていないのが実状で、今後本学の特に臨床研究の方向として重要ではないかと感じております。

愛知医科大学には、これら以外にも今回触れられなかった疾患レジストリが多くあると思えます。共同研究などを通して今後更に重要な臨床研究基盤になっていくことを期待しております。

皆さまには、本年もどうぞご指導・ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



－更なる医学部の発展－

医学部長 若槻明彦

新年明けましておめでとうございます。

医学部長を拝命して今年度で4年間が経過します。振り返ってみますと、最初の試練は日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価の受審でした。医学教育分野別評価推進委員会と医学教育分野別評価運営委員会を設立して、長時間をかけて自己点検評価報告書を作成し受審に臨みました。その結果、多くの好評価をいただきました。これは多くの教員の先生と事務方の協力あっての成果です。皆さまには心から感謝申し上げます。一方で、若干の指摘も受けました。特にJACME評価委員からプログラム評価部門の変更について言及されましたので、今年度、新しくプログラム評価委員会を発足させ、年次報告を行いました。

次の試練は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックです。医学教育分野別評価の受審が終了してほっとしたところ、年明けから感染が拡大しパンデミックとなりました。COVID-19が発生してから既に2年間が経過しようとしております。昨年末には感染者数の減少が一時的にみられましたが、今年になり新しいオミクロン株が急速に蔓延しており、未だに収まる兆しがみえません。この2年間、COVID-19のため医学教育は大きく変革せざるを得ませんでした。本学ではCOVID-19の対策委員会を頻回に開催して感染予防のための活動基準を何度も見直してきました。講義に関しては半数の学生が登校し、半数がWebで講義を受けるハイブリッド方式を中心に行ってきましたが、更なる感染拡大のため、残念ながら講義は全てWeb、臨床実習も中止としました。将来COVID-19が収束しても、これまでとは異なり、ICT教育が必須になると考えられ、今後更なる教育内容の工夫が必要と考えます。

医学部の実力が客観的に評価される明確な指標の

一つに医師国家試験の成績があります。本学における以前の新卒合格率は私立医科大学の中で下位に低迷しておりましたが、平成29年4月に医師国家試験対策強化委員会を設立し、積極的な取り組みをしてきた結果、平成30年以後、合格率を94%以上に維持できるようになりました。昨年度は109名受験者の中で107名が合格し、合格率98.2%と、29私立医科大学の中で3位タイとこれまでで最高の成績をあげることができました。一昨年目標が新卒の合格率95%以上で、私立医科大学の順位が5位以内でしたので、なんとか達成することができました。しかし、今後の医師国家試験の内容は大きく変わることが予想されます。昨年末に5、6学年次を対象とし、CBTによる医師国家試験トライアルが施行されました。試験内容は現在の知識中心の問題ではなく、臨床実習の内容がかなり含まれており、今後、これまでとは異なる医師国家試験の勉強方法の対策が必要と感じています。また、共用試験が昨年法制化され、これに伴い、様々な点に変化することになります。例えば、2年後よりOSCEが公的化された場合、学生評価は学外評価者が中心になり、評価はこれまでよりも厳格になる可能性があります。しかし、模擬患者の数をどう維持するか、OSCEの開催場所を統一できるか、評価を均一化できるかなどの問題点も多くあり、いち早く情報を収集して対応できるだけの基礎体力をつけておく必要があると思います。

このように医学教育の内容は今後大きく変革する可能性があり、医学部を取り巻く環境は益々厳しくなってくることが予想されます。この中で教員と事務職員全員が一致結束して本学のブランド化のために尽力し、更なる発展を遂げることを願っております。



－ポストコロナを見据えた 挑戦を－

看護学部長 坂本 真理子

令和4年の年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

皆さまには、日頃から看護学部・看護学研究科の教育活動に多大なるご理解ご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

長く続くコロナ禍の下、現場の保健医療機関で活動されている保健医療者の皆さまのご努力には心から感謝申し上げます。長期化を強いられる感染対策により、あらゆる分野に深刻な影響が出ています。この世界的な危機を皆さまと共に超えて参りたいと思っております。

それでは、この場をお借りして、看護学部の1年をご報告させていただきます。

令和3年も前年同様、新型コロナウイルス感染症感染拡大の動向に合わせて講義や演習、実習を変更せざるを得ない状況が続きました。しかし、令和2年に培った感染症対応の経験を活かし、全体としては混乱なく対応を行うことができたと振り返っております。医学部と合同で取り組んだ大学コロナ対策委員会や常任理事会での検討は、大学全体としての方針を明らかにした上で、各学部が特性を活かして対応することに大いに役立ちました。看護学部内では危機管理対策チームとして役職者の教員と事務責任者が感染に関する情報を共有し、共通した対応ができるような仕組みに位置付けました。

Zoomを用いた遠隔授業や学内の授業支援システムの活用は教職員や学生にすっかり定着し、柔軟に遠隔授業と対面授業を組み合わせ、途切れることのない教育が提供できております。特に、看護学部事務職員による遠隔授業のサポート体制は大きな力となっております。臨地実習では、医大病院のバックアップ体制のもと、感染状況に対応したルールを決めさせていただき、制限のある中でも最大限の教育効果を上げられています。残念ながら臨地実習ができなかった期間についても、教員の工夫と努力により、臨地実習に近い状況を模擬的に作り出す取り組みが行われました。遠隔授業で培った経験を各種セミナーや特別講義、大学院の特別講義などにも活かしており、物理的な距離を超えて本学部の取り組みをお知らせできる機会が増えていることも、コ

ロ禍の下で培ったノウハウの思わぬ効用と言えるでしょう。

長引くコロナ禍は、学生の経済事情にも大きな影響をもたらしました。家計収入やアルバイト収入の減少の中で、看護学部では4月から7月まで3回にわたり「あなたの元気を守りたい“緊急食べ物支援”プロジェクト」を実施しました。このプロジェクトは、看護学部同窓会や教職員からの寄付を得て、希望する学生へ支援を行うものでした。支援を受けた学生は延べ88人にわたりました。学生からは、「アルバイト収入が減り食費を削っていた。」「実習中アルバイトができなかったので、食料支援が助かった。」など感謝の声が届いています。昨年後学期からは、本院における学生夜間看護補助チーム「愛Crew」が開始され、安心できる環境の中で臨床経験にも繋がるアルバイト機会として、多くの学生が参加させていただき、学生の経済事情の改善に繋がりました。

看護部と看護学部の看護連携型ユニフィケーション事業も令和3年4月から始まりました。この事業は、看護部と看護学部の積極的な人事交流を促進し、双方の人材育成を効果的に行うことを目的としたものです。これまでも愛知医科大学病院の看護部とは多くの協働を重ね、安定した信頼関係を築いて参りました。今後は更にこの事業を促進し、本学の魅力の一つとして発展させていきたいと考えております。

海外との往来がままならぬ昨今ではありますが、令和3年8月には、遠隔にてシンガポール国立大学 ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科との学術交流と協力に関する覚書を締結することができました。シンガポール大学は言うまでもなく常に世界の大学のトップレベルにランク入りしている大学であり、この提携は、本学部の教員や学生たちにとってまたとない学術的な刺激をもたらすものと期待しております。

看護学部は、今後も必要な感染対策を確実にしつつ、ポストコロナを見据えた次なる挑戦に向けて教職員一同、努力を重ねていく所存ですので、一層のご指導ご支援をお願いしたいと存じます。皆さまのご健康と益々のご活躍を心から祈念致しまして、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。



謹賀新年

— 新たな年を迎えるに当たり、
ごあいさつ申し上げます。 —

病院長 道 勇 学

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆さまにおかれましては、日頃より愛知医科大学及び病院に対してご厚情を賜わり、先ずもって御礼申し上げます。

昨年、本院は荒れ狂う新型コロナウイルス感染症の猛威の中を、決して後退することなく突き進んで参りました。これには、本学関係者の方々の絶大なご支援のもと、個々の病院職員が持つ強靱な職責遂行意志の結集が大きな推進力となったのだと私は考えており、管理を預かる立場の者として全ての職員に対し心より感謝致します。特筆すべきは、令和3年5月以降の第4波及び第5波の大きな新型コロナウイルス感染症感染拡大に対して、武山直志副院長の指揮の下で感染症科の三嶋廣繁教授及び感染制御部スタッフ、内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）の伊藤理教授が強固に務めてくれた適時、適正な院内防御・治療体制、そして救急診療部の加納秀記教授が先頭に立ち確保病床数を有効かつ効率的に運用した感染患者入院受け入れ体制、この両体制の運用は見事でした。加えて、総合診療科の前川正人教授が統括するプライマリケアセンター発熱外来におけるコロナ水際対応は、本院の揺るがぬ底力、総合的診療能力を示しています。

その一方において、通常診療のパワーを落とすことなく平常時に近い入院患者数と外来患者数を確保・維持できたこと、更にはこの最中の9月に病院機能評価という重要課題を迎え、出家正隆副院長の指揮の下でつつがなく受審を終えることができたこと、これらは全て病院職員全体が一丸となって医療の責務に邁進してくれた賜物であり、正に本院のレジリエンスの高さを表すものと考えています。

令和4年を迎え、新型コロナウイルス感染症・オミクロン変異株の感染第6波到来の動向、更には未知の病原変異株出現の可能性が気になるころではありますが、本院では引き続き監視の眼・手を緩めることなく可塑性を持って新型コロナ対応を継続し、並行して医療の質の向上及び業務の質の改善・向上に必須のPDCAサイクルシステムの確立など、昨年の病院機能評価で指摘を受けたいくつかの改善項目のクリア、来たる令和6年度に向けた働き方改革・就労管理の推進、昨年に引き続いて「断らない救急診療」並びに屋根瓦式研修指導体制を組み込んだ時間外救急診療体制の更なる充実、及び本学メディカルセンターとの医療連携を組み入れた「顔の見える」地域医療連携の活性化などに尽力していきたいと思えます。

併せて、私が副院長時代から取り組んでいる病院経営基盤の強化については、「攻めの診療報酬算定請求」が徐々に目に見える形になってきており、今後は昨年度に設計した増収・経営効率向上に向けた特化病床ユニット構築シミュレーションの具現化を大学法人と共に探りたいと考えています。このように、本院が更なる進化を遂げるために達成すべき課題は数多く、本年は本院にとって改革の幕開けとも言えるべき「挑み」の年になりそうです。私は、引き続き職員を信頼し、本院の運営を推進していきたいと考えます。

最後に、大学関係者の方々、病院全職員及び学報をお読みの皆さまの本年を通してのご健勝と、この愛知医科大学、愛知医科大学病院の益々の発展・成長を祈念して、年頭のごあいさつとさせていただきます。

役員・評議員の改選 —理事長に祖父江 元 理事が再任—

令和4年1月11日開催の理事会・評議員会において、令和4年1月27日付け任期満了に伴う役員及び評議員の改選が行われ、令和4年1月28日付けで以下の方々が就任されました。

任期は、令和4年1月28日から令和7年1月27日までの3年です。(非改選は除く。)

また、令和4年1月28日開催の理事会において、祖父江 元 理事が理事長に選任されました。任期は、令和4年1月28日から令和7年1月27日までの3年です。

【理事】

選任区分	氏 名
学長	祖父江 元 (非改選)
評議員のうちから評議員会において選任	伊藤恭彦, 岩船徹雄, 坂本真理子, 島田孝一, 道勇 学, 羽生田正行, 羽根田雅巳, 福澤嘉孝, 若槻明彦
学識経験者のうちから理事会において選任	内海 眞, 齋藤 勉, 祖父江 元, 柵木充明, 真能秀久, 山口 力

【監事】

選任区分	氏 名
法人の理事, 職員又は評議員以外の者のうちから評議員会の同意を得て理事長が選任	岡田 忠, 林 清博 (非改選)

【評議員】

選任区分	氏 名
法人の職員で理事会で推薦された者のうちから評議員会において選任	天野哲也, 伊藤恭彦, 井上里恵, 岩船徹雄, 坂本真理子, 佐藤元彦, 島田孝一, 高橋佳子, 道勇 学, 羽生田正行, 羽根田雅巳, 細川好孝, 若槻明彦
この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25年以上のものの中から理事会において選任	福澤嘉孝, 藤澤恵児, 早稲田勝久
学識経験者のうちから理事会において選任	伊藤健吾, 内海 眞, 金山和広, 木下 登, 齋藤 勉, 祖父江 元, 高安正和, 鳥井彰人, 服部達哉, 古井 景, 柵木充明, 真能秀久, 村上恒久, 安川龍也, 山口 力

退任理事：坂井克彦, 那須國宏, 山内一征

退任評議員：伊藤隆之, 坂井克彦, 那須國宏, 山内一征

創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなぐ～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考究」を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

愛知医科大学は令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えます。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療の

基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年4月 メディカルセンター開院



令和4年1月 2号館4階に誘致



メディカルクリニック・アイセンター（仮称）設置予定

創立50周年記念募金 募集要項

募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金

目標金額 10億円

募集金額 個人1口1万円，法人1口5万円

※できましたら、多数口のご協力をお願い致します。

募集方法 ①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

（払込取扱票をご希望の方は資金・出納室寄附金担当までお問い合わせください。）

②インターネットのお申込みによるクレジットカード、ペイジー等でのお振込み

税制優遇措置 所得税（法人税）上の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。

税制手続きにより寄附金控除が適用されます。

スマホから寄附の
お申込みができます



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部資金・出納室寄附金担当

TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866

E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp

愛知医大 募金

検索

令和4年新年祝賀式挙行

令和4年1月4日（火）午後3時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

【写真】

祝賀式では、祖父江元 理事長から、「昨年はコロナに明け暮れた年でしたが、コロナ患者対応からワクチン接種まで、大学・病院ともに全力で対応していただき、皆さまの大変なご尽力のおかげで、何とか乗り切ることができました。皆さまには改めて御礼申し上げるとともに、引き続き何卒よろしくお願いたします。また、私は就任以来、本学の活性化のため、『断らない救急』、『顔の見える地域連携』、『時代にマッチした働き方改革』を大きなテーマとして、いくつかのプロジェクトを進めてきており、いずれも進行中ですので、日々皆さまのご意見を伺いながら、進めて参りたいと思いま



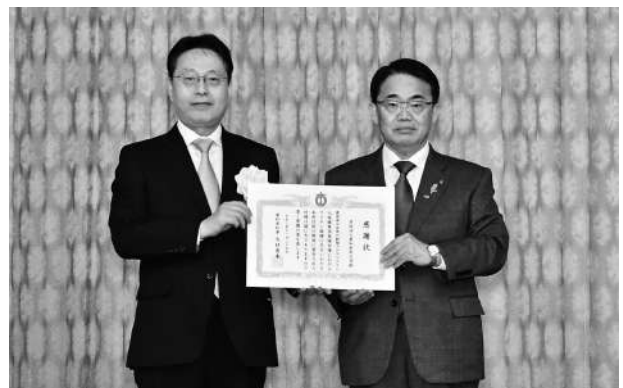
す。また、今年は何よりも創立50周年という非常に重要な年であります。記念式典やメディカルクリニック再編を始めとする10の記念事業を中心に進めており、皆さまにご協力いただく部分もあるかと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。」とあいさつがありました。

新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種会場協力 愛知県知事から感謝状贈呈

令和3年11月29日（月）に愛知県庁本庁舎6階正庁において、新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種関係者への感謝状贈呈式が行われ、本学メディカルセンターの羽生田正行病院長が理事長の代理として、愛知県の大村秀章知事から感謝状を贈呈されました。【写真】

愛知県では、令和3年5月から新型コロナウイルスワクチンの大規模集団接種会場を設置し、高齢者接種及びそれに続く住民接種を速やかに実施していけるよう対策を講じてきましたが、この度、医療従事者の確保、会場運営等に尽力した関係団体等に対して、知事感謝状が贈呈されました。

本学では、愛知県からの要請を受け、令和3年7月3日（土）から11月19日（金）まで岡崎市のメディ



カルセンターにおいて、新型コロナウイルスワクチン大規模集団接種会場として協力しました。また、名古屋空港ターミナルビル及びあいちワクチンステーション栄に開設された会場でも接種に協力しました。

叙勲の榮譽

本学職員及び元職員の方々が叙勲の榮譽に浴されましたことを心からお祝い申し上げます。

春の叙勲

入退院支援センター・石塚美津子さん

本院入退院支援センターの石塚美津子さん【写真】が、令和2年春の叙勲において瑞宝単光章を授与されました。心からお祝い申し上げます。

石塚さんは、昭和52年から本院に勤務され、当時新設されたばかりの病院の救命救急センターにおいて看護師としての経験を積まれました。その後、平成10年に新しく設置された在宅看護相談室に配属され、退院調整専従看護師として院内外で活躍されました。

院内では在宅医療に対するスタッフの意識改革を図り、院外では多様な医療機関、医療職種が連携して在宅医療に臨んでいけるような機会を数多く設けることで愛知県全体の在宅医療の質の向上に貢献さ



れました。平成29年に定年退職を迎えられた後も、再任用職員として勤務され、入退院支援センターの退院支援専従看護師として患者退院支援に日々尽力されました。

秋の叙勲

元看護部・工藤すみさん、加藤由紀子さん、ジョシィ英子さん

本院元看護師長の工藤すみさんが令和元年秋の叙勲、元看護部副部長の加藤由紀子さんが令和2年秋の叙勲、同じく元看護部副部長のジョシィ英子さんが令和3年秋の叙勲において瑞宝単光章を授与されました。心からお祝い申し上げます。

工藤さんは、昭和58年から本院に勤務され、消化器外科、神経内科等での業務に従事されました。患者・家族を中心とした看護サービスを行う一手段として、看護師がペアとなって看護ケアを行うPNS（パートナーシップ）看護方式を参考に、変則型のPNS方式を病棟に取り入れることで、患者にとって最適であり職員にとっても働きやすい環境を整えることに注力されました。

平成14年にはNST（栄養サポートチーム）の立ち上げメンバーとして医師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師と共に活動の周知や運営方法の改善に取り組みされました。平成30年に定年退職を迎えられた後



も、再任用職員として勤務され、チーム医療であるNSTの専従看護師として、入院患者の栄養評価、栄養改善に向け、尽力されました。

加藤さんは、昭和61年から本院に勤務され、HCUや泌尿器科で看護業務に従事された後、平成16年には感染管理を専門とする院内感染対策専門員となり、感染対策専従看護師として活躍されました。

平成25年の愛知医科大学病院でのインフルエンザのアウトブレイク時には毎日朝と夕に全職員宛に発生状況のメールを配信し、病院全体でこのアクシデントに立ち向かうという姿勢を先頭に立って示されるなど、愛知医科大学病院の感染の番人として長年にわたり院内の感染対策に尽力されました。また、感染対策に関する数々の講演や啓発活動を行うことで地域や国全体の感染対策のレベルアップに貢献されました。



ジョシイさんは、昭和51年から本院に勤務され、産婦人科病棟やHCUで看護師の経験を積まれました。その後も、皮膚科・形成外科の重傷熱傷病棟や腎センターなど様々な部署をご経験される中で、チームづくりを重視した看護サービスの向上を常に目指され、病院運営における人間関係の調整という重要な役割を担い尽力されました。

また、これからの時代を担う新しい看護師長の育成、そしてスタッフが働きやすいようなマニュアルの整備や環境整備に積極的に取り組まれました。平成30年に定年退職を迎えられた後も再任用職員として勤務され、保健管理センター看護師として、職員のメンタルサポートや体調不良者の看護など、大学・病院職員の健康増進のために活躍されました。



大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

大学病院を有する本学へのご協力として、BENKEI様から食料（菓子パン770個）、ツキノニジ様から食料（米粉入りベーグル320個）のご寄付についてお申し出を賜りました。このたびのご厚意に深く感謝

申し上げますとともに、前号に引き続きご紹介させていただきます。（受領期間：令和3年11月1日～令和4年1月31日）

令和3年度永年勤続者表彰

令和3年11月22日（月）、大学本館たちばなホールにおいて令和3年度永年勤続者表彰式が行われました。

式では、祖父江元 理事長から表彰状が授与され、被表彰者への御祝いと御礼の言葉とともに、「長年の経験と知識を活かして、愛知医科大学の新たなイノベーションに今後も参加していただきたいと思います。本日は本当におめでとうございます。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、看護部の坂田久美子副部長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる坂田副部長

30年勤続者（24名）

泉 雅之	大脇 雅弘	小川 路香	加藤 俊二	加藤多美男	加藤 肇	神谷 妙子
坂田久美子	鈴木 智子	高橋 和子	瀧田 恵美	戸田 景子	前川 正人	前村 泰子
松井 卓哉	光武 紀子	宮城 浩昭	矢内 亨扶	山田 敦子		

20年勤続者（21名）

内村 政信	榎本めぐみ	遠藤 真	加藤 勲	兼本 浩祐	岸川 典明	木下 大輔
小林 美和	沢田 昌己	中村 慈恵	原田 晴美	星野 香織	本庄しのぶ	宮本 淳
林 櫻松						

10年勤続者（52名）

板倉 瞳	市川あや乃	伊藤 邦弘	稲垣 拓磨	岩崎 靖	内田 千夏	内田 育恵
太田 明伸	大橋 力也	岡田尚志郎	小野 信行	各務 美砂	梶川 圭史	加藤 理恵
竈本 麻美	神谷 英紀	小嶋早葵子	小林 郁生	近藤 真治	志摩 愛子	鈴木 崇峰
田口宗太郎	堤 啓介	長屋さつき	西井 巖夫	野畑 宏信	橋本 貴宏	畠山 登
早川 祐樹	林 富雄	早瀬 瑞貴	堀尾 知弘	本田 芙海	松下 宏	眞野まみこ
水野 愛	向井健太郎	村瀬 弘樹	森 莉那	山西 浩史	山本 侑果	横家 貴裕

（97名：五十音順・敬称略）※氏名掲載は希望者のみ。表彰状に記載されている氏名としています。

ハラスメント防止イベント開催

令和3年12月4日（土）から10日（金）の人権週間にちなんで、本学でのハラスメント防止に向けた啓発活動が実施されました。

令和3年12月6日（月）・9日（木）をイベント開催日とし、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント及びマタニティハラスメント関連のDVD放映が行われました。DVD視聴者からは、「今回、ハラスメントに関する相談をできる場所があることを知りました。」「ハラスメントを受けた本人は、個人を特定されてしまうことを恐れて、相談しづらい状況に追い詰められています。」「自分ではグレーな部分と判断される場合でも、実は問題がある場合もあるということを改めて認識できました。」など

の意見がありました。

このほか、職員や学生の目につくパブリックスペースに、ハラスメント防止ポスターを掲示し、広くハラスメント防止の意識付けを行うとともに、ハラスメントに関する相談を気軽にできる機会として、簡易相談窓口が設置されました。

困ったときは一人で悩まず、携帯用の『ハラスメント防止啓発カード』にある相談窓口の専用電話番号（内線:77744）や専用メールアドレス（ksoudan@aichi-med-u.ac.jp）を利用して、相談するように心掛けていただきたいと思います。

今後も『ハラスメントのない明るい職場作り』にご協力をお願いします。

研究創出支援センターのバイオバンク施設リニューアル！ ～より臨床研究に適した試料保存のために～

研究創出支援センターでは、全学的な研究支援の一環として、臨床研究に用いる生体試料を適切に収集、保存を行うため、平成28年7月に「バイオバンク部門」を設置し、本院の患者さんを中心にがん組織や血液等の生体試料の採取に協力をいただいて収集を行ってきました。これまでは、センターの実験室の一部スペースに生体試料を保存するための機器（フリーザー等）を設置して運営を行って参りましたが、試料管理のセキュリティ強化や機能改善と強化のため、施設の拡充が急務となっていました。

今般、センターの一部を改修し、各種の機器等の整備も行い、バイオバンク部門の専用施設が実現し、稼働することとなりました。

この施設には、生体試料保存用のフリーザー6台を集約するとともに、保存の前処理などを行う機器のほか、収集する生体試料に関する情報を管理する



リニューアルしたバイオバンク施設

パソコンや試料保管のオーダー確認のための電子カルテ端末も設置し、収集から各種の処理、保存、試料の提供までを一括管理しセキュリティも保てる施設へと環境整備が進められました。

今後、新たな施設が、本学全体の臨床研究の質の向上に一層寄与していくことが期待されます。

愛知医科大学公開講座（瀬戸市連携事業）

令和4年1月12日（水）午後2時から瀬戸市やすらぎ会館5階大集会室において、瀬戸市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

本講座は、平成30年度から実施しておりますが、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で残念ながら中止となっております。今年は、会場定員の半数以下と規模を縮小して、こころのケアセンターの酒井玲子先生が、「コロナ禍のストレスとうまくつきあうコツ～自分らしく生き抜くために～」と題し、新型コロナウイルスに関連した、うつやストレスへの対処法について講演されました。

コロナウイルスという目に見えない敵に対して、何者かわからないことが不安や恐怖を引き起こし、別の対象に置き換えて攻撃してしまうという人間の心理や、各年代に起こった影響についての説明があ



りました。コロナ禍にかかわらず、ストレスを知ってうまく対処するための具体的な方法や、ストレスとの付き合い方を述べられ、参加者からは、「人のかかわりの持ち方や、人を頼ることの大切さも学ぶことができた。」などの感想があり、大変盛況な講座となりました。

令和3年度愛知県災害医療研修会開催

平成27年度以降、愛知県及び愛知県医師会と本学（災害医療研究センター）との三者で共同開催している「災害医療コーディネート研修」について、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、「愛知県災害医療研修会」として医師を対象としたオンライン形式の研修会に変更し、本学を運営本部として、令和3年12月5日（日）に開催されました。

当日は、市町村医師会代表者、災害医療コーディネーター、保健所医師など73名の受講があり、大規模災害時において医療・介護福祉施設等がどのような被害を受け、それに対してどう備えるべきかを過去の活動経験を踏まえて講演があり、実際の活動状



運営本部の様子

況を学ぶ機会として参加者から好評を得ました。

本学では、南海トラフ地震や各種災害における犠牲者を軽減するため、災害医療の教育・研究をより積極的に進めて参ります。

令和3年度大学コンソーシアムせとカレッジ講座開催

令和3年11月20日（土）に、瀬戸市のパーティセと4階マルチメディア室において、看護学部老年看護学領域の横山剛志講師による、大学コンソーシアムせと「カレッジ講座」が開催されました。【写真】今回の講座では、「夜ぐっすり眠れるように実践してみよう！～夜間頻尿の改善を目指したセルフケア～」と題した講演が行われました。対面とオンラインを使用したハイブリット型の講演スタイルで、53名の市民の方々に参加していただきました。

今回のテーマは、夜間頻尿に関する原因とケアに基礎的な知識の説明と、排尿日誌の記載方法や過活動膀胱症状のセルフチェックなどを体験いただくもので、更に、行動療法（骨盤底筋訓練等）などの具体例についての紹介が行われました。参加者の皆さま



まは、メモをとられるなど熱心に聴講されており、疑問点などについての積極的な質問もありました。

今後も看護実践研究センター地域・連携支援部門では、大学コンソーシアムせとにおいて、地域住民の皆さまのニーズに即した講座を企画していく予定です。

eポートフォリオシステム（Mahara）利用講演会開催

総合学術情報センター（ICT支援部門）において、令和3年11月1日（月）、オンラインにより、eポートフォリオシステム（Mahara）利用に係る講演会が開催されました。

講師には、東京医科大学教育IRセンターの油川ひとみ氏をお招きし、「共有からはじまる新たな学びのかたち～eポートフォリオの東京医科大学式活用方法」と題して、eポートフォリオシステムであるMaharaの機能説明及び本学と同じシステムを利用する東京医科大学における実際の活用事例などを交えてご講演いただきました。

講演では、eポートフォリオとLMS（eラーニングシステム）との違いやその特性を理解し、各機

能を利用することで、Maharaの活用によりLMSでは難しいきめ細やかな学生指導を行うことができるとの説明がありました。

昨年度から、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う遠隔（オンライン）講義の実施により、教員と学生が直接接する機会が減少しているため、学生指導においてこれまで以上にeポートフォリオの必要性が高まっており、一層の利活用が期待されます。

総合学術情報センター（ICT支援部門）では、今後も教育におけるeポートフォリオシステム活用のサポートを通じて学修支援を行うとともに、教育現場での活用に貢献することを目指しています。



献血ご協力ありがとうございました

令和4年1月11日（火）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方にご協力いただきました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

次回は令和4年6月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願ひします。

冬の団体献血（結果）

・ 献血受付数	・ 55名
・ 献血できた方	・ 46名 (400ml・38名)
・ 献血できなかった方	・ 9名

令和3年度愛知医科大学SDへの取組

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

全学コミュニケーション研修 「ジャストコミュニケーション研修」の実施

令和3年7月13日（火）、15日（木）、19日（月）、26日（月）、29日（木）の5日間にわたり、全教職員を対象とした「全学コミュニケーション研修」が実施され、457名の教職員が参加しました。

本研修は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、ペアワークによる実践演習を取り入れて実施しました。

研修では、「ジャストコミュニケーション」というテーマで、相手の理解度や緊急性など話す内容を決める中で考慮すべき情報や会話の組み立て方に関する技法を学んだことにより、多様なシチュエーションに対応したコミュニケーションの考え方を学びました。相手の理解度等を考える、結論から述べるなど一見、当たり前のように感じる内容でしたが、アンケート結果には「つい、業務だけを指示してし



研修の様子

まうので、仕事の本質を伝えることを意識してみたい。」「無意識のうちに過剰なコミュニケーションやタイミングを逃していることに気づけた。」などの意見があり、無意識のうちに意識しなくなっていたことに気付く良い機会になりました。

産業医講演会の実施

令和3年11月4日(木)に、大学本館たちばなホールにおいて、「職場におけるメンタルヘルスのラインケア」をテーマに産業医講演会が開催されました。【写真】今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出席者の人数制限を設けることに加え、事前に講演会後の動画配信があることを周知し、実施しました。

講演会では、本学の産業医である衛生学講座の鈴木孝太教授から、メンタル不調による休職からの復職者と日常的に接する同部署の職員が、心の健康に関して職場環境等の改善や相談対応を行う「ラインケア」について、具体的な事例を用いながらご説明いただきました。また、コミュニケーションに関する考え方として、世代間の違いを考えることや、相手の行動変容を促す際のポイントについてもご解説いただきました。



研修会後のアンケートでは、「若者との違いについても、学生さんとの実体験をもとにお話しただけだったので、理解しやすかった。」「年に複数回、重点的に行った方が良い。」など、これまでに引き続き、好意的な意見がありました。今後も引き続きこの産業医講演会を開催し、教職員のメンタルヘルスの理解へつなげていく予定です。

ハラスメント防止講演会の実施

令和3年12月1日(水)に、大学本館たちばなホールにおいて、「ハラスメントの本質を考察するー上司として部下の育成とどう向き合っていくかー」をテーマにハラスメント防止講演会が開催されました。【写真】一昨年この講演会でご登壇いただきました、筑波大学教授の松崎一葉先生氏を講師としてお迎えし、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意した上で、教職員303名(当日出席者59名、動画受講者244名)が受講しました。

講演会では、パワハラ、セクハラ、モラハラの事例から、ハラスメントの何が問題なのか、ハラスメントをしてはいけない理由とその対処法についてご説明いただきました。対処法の中には、変化に対する俊敏な適応性を持ったシステムの構築に関することや近年注目を集める用語「心理的安全性」を確保するためのポイント、リーダーシップ論など、深く



かつ幅広い内容でご講演いただきました。一つひとつのトピックスに対し、なぜそうなるのか、どうしたら良いのかを端的にわかりやすく説明されつつ、具体的な事例や動画を織り交ぜていただいたことから、研修会後のアンケートでは、「わかりやすい。」「有意義で貴重な講演でした。」「全職員が受講すべき。」という感想が目立ちました。

事務職員向け学内研修の実施

令和3年12月に事務職員が各部署の業務内容と最新情報を理解することで知識向上と業務の効率化を図ることを目的として、「令和3年度事務職員向け学内研修」が実施されました。研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各回定員を設けて実施しました。

同じ事務職員でも、他部署がどんな仕事をしているのかについて普段なかなか知る機会がありませんが、この学内研修を通して、各部署の業務内容、他部署との違い、業務において気を付けるべきポイントなどについて、各担当から説明があり、基本的知

識や最新情報を事務職員同士で共有することができました。

受講者からは、「病院における医療安全課の役割が理解でき良かったと思います。」「部署設立の背景等から運営や内容など具体的な中身までわかることができました。」「DMATやDPAT等聞いたことはあったが詳しく知らなかったので、勉強になりました。」などの感想がありました。今後も様々な部署に講師を依頼し、本研修を事務職員の知識向上と情報共有の機会とする予定です。

<事務職員向け学内研修>

開催日：12月15日（水）

テーマ：医療安全課の業務紹介

講師：医療安全課 原田健一主査
今田佑果主任

開催日：12月22日（水）

テーマ：病院管理課の業務紹介

講師：病院管理課 阪井亮介主事



令和4年度学年暦のご紹介

令和4年度の医学部及び看護学部的主要な学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月4日	5・6学年次前学期授業開始
4月5日	入学式
4月6日・4月8日	新入生ガイダンス
4月6日・4月7日	新入生研修
4月8日	2・3学年次学生定期健康診断
4月11日	1～4学年次前学期授業開始
4月15日	1・4学年次学生定期健康診断
5月6日	5・6学年次総合試験A 5・6学年次学生定期健康診断
5月9日	解剖慰霊祭
5月23日～5月27日	1学年次早期体験実習1a (シミュレーション実習)
5月30日～6月3日	1学年次早期体験実習1b (看護体験実習)
7月6日～7月8日	4学年次定期試験
7月11日～7月15日	4学年次地域医療早期体験実習
7月16日	6学年次共用試験Post-CC OSCE
7月19日～7月22日	2学年次定期試験
7月19日～7月21日	3学年次定期試験
7月19日～8月21日	5学年次夏季休業
7月19日～9月4日	6学年次夏季休業
7月25日～7月29日	1学年次定期試験 2学年次外来案内実習
7月25日～8月17日	4学年次夏季休業
8月1日～8月28日	1～3学年次夏季休業
8月18日・8月19日	4学年次共用試験C B T
8月29日	1～3学年次後学期授業開始
9月5日～9月16日	3学年次地域包括ケア実習
9月10日・9月11日	4学年次共用試験Pre-CC OSCE
10月3日	4学年次後学期授業開始
10月8日	4学年次白衣式
10月11日	6学年次後学期授業開始
10月12日	5学年次後学期授業開始
10月12日・10月13日	5・6学年次総合試験B
10月20日	1～3学年次防災訓練
10月24日～10月28日	1学年次早期体験実習1c (臨床科見学実習)
10月29日・30日	医大祭
12月12日～12月16日	2学年次定期試験
12月19日～12月23日	1学年次定期試験
12月22日・12月23日	3学年次定期試験
12月19日～1月3日	6学年次冬季休業
12月23日～1月8日	2学年次冬季休業
12月26日～1月3日	1学年次冬季休業
12月26日～1月8日	3～5学年次冬季休業
1月10日～1月13日	2学年次定期試験
1月16日～1月25日	2学年次チーム医療実習
1月21日	4・5学年次総合試験C
1月26日～2月1日	1学年次定期試験 2学年次地域社会医学実習
2月13日～3月31日	1・2学年次春季休業
2月15日～3月31日	3学年次春季休業
3月4日	卒業証書・学位記授与式
3月20日～3月31日	5学年次春季休業
3月22日～3月31日	4学年次春季休業

看 護 学 部	
4月5日	入学式
4月6日～4月11日	新入生ガイダンス・新入生研修
4月6日	2～3学年次前学期授業開始
4月7日	4学年次前学期授業開始
4月8日	1・4学年次学生定期健康診断
4月12日	1学年次前学期授業開始
4月15日	1・4学年次学生定期健康診断
5月6日	4学年次定期試験
6月11日	2学年次キャンドルセレモニー
6月20日～6月24日	2学年次定期試験
6月27日～6月29日	3学年次定期試験
7月25日～9月11日	4学年次夏季休業
8月1日～8月5日	1学年次定期試験
8月1日～9月12日	3学年次夏季休業
8月2日～9月12日	2学年次夏季休業
8月8日～9月12日	1学年次夏季休業
9月12日	4学年次後学期授業開始
9月13日	1～3学年次後学期授業開始
10月20日	1～4学年次総合防災訓練
10月29日・30日	医大祭
12月19日～1月3日	1・3学年次冬季休業
12月19日～1月4日	2学年次冬季休業
12月22日～1月3日	4学年次冬季休業
1月5日～1月20日	2学年次定期試験
1月23日～1月30日	1学年次定期試験
1月23日～3月31日	2学年次春季休業
1月31日～3月31日	1学年次春季休業
2月1日～2月3日	3学年次定期試験
2月6日～3月31日	3学年次春季休業
3月4日	卒業証書・学位記授与式

令和4年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●学校推薦型選抜

<公募制>

- ①試験日 令和3年11月27日(土)
- ②志願者数 96名
- ③受験者数 95名
- ④合格者発表 令和3年12月9日(木)
- ⑤合格者数 20名

●国際バカロレア選抜

- ①試験日 令和3年11月27日(土)
- ②志願者数 2名
- ③受験者数 2名
- ④合格者発表 令和3年12月9日(木)
- ⑤合格者数 2名

●一般選抜

<第1次試験>

- ①試験日 令和4年1月18日(火)
- ②志願者数 2,040名
- ③受験者数 1,989名
- ④第2次試験受験資格者発表
令和4年1月24日(月)

- ⑤第2次試験受験資格者数
409名

<第2次試験>

- ①試験日 令和4年1月27日(木)・28日(金)
- ②合格者発表 令和4年2月3日(木)

●大学入学共通テスト利用選抜

<前期>

<第1次試験>

- ①試験日 令和4年1月15日(土)・16日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和4年2月10日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 令和4年2月17日(木)
- ②合格者発表 令和4年2月24日(木)

<後期>

<第1次試験>

- ①試験日 令和4年1月15日(土)・16日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和4年2月28日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 令和4年3月3日(木)
- ②合格者発表 令和4年3月10日(木)

●学校推薦型選抜<愛知県地域特別枠A方式>

- ①試験日 令和3年11月27日(土)
- ②志願者数 12名
- ③受験者数 12名
- ④合格者発表 令和3年12月9日(木)
- ⑤合格者数 2名

●大学入学共通テスト利用選抜<愛知県地域特別枠B方式>

<第1次試験>

- ①試験日 令和4年1月15日(土)・16日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和4年2月28日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 令和4年3月3日(木)
- ②合格者発表 令和4年3月10日(木)

《看護学部》

●学校推薦型選抜

<指定校制>

- ①試験日 令和3年11月13日(土)
- ②志願者数 17名
- ③受験者数 17名
- ④合格者発表 令和3年11月24日(水)
- ⑤合格者数 17名

<公募制>

- ①試験日 令和3年11月13日(土)
- ②志願者数 46名
- ③受験者数 46名
- ④合格者発表 令和3年11月24日(水)
- ⑤合格者数 14名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 令和3年11月13日(土)
- ②志願者数 2名
- ③受験者数 2名
- ④合格者発表 令和3年11月24日(水)
- ⑤合格者数 2名

●一般選抜

- ①試験日 令和4年1月23日(日)
- ②志願者数 470名
- ③受験者数 465名
- ④合格者発表 令和4年2月2日(水)

●大学入学共通テスト利用選抜(A方式・B方式)

- ①試験日 令和4年1月15日(土)・16日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:令和4年2月9日(水)

《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系, 臨床医学系各専攻合わせて19名
- 2 出願期間
令和3年12月1日(水)から
令和3年12月15日(水)まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は, 学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 令和4年2月4日(金)
②試験項目及び時間

時間	試験項目
10:00 { 12:00	外国語(英語)[辞書使用可, 電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は, 英語一カ国語のみによる試験又は英語と日本の二カ国語による試験のいずれかを選択する。
13:00 {	面接試問(志望する専攻分野に関連する専門試験を含む)

- 4 合格者発表
令和4年2月28日(月)
- 5 入学手続期間
令和4年3月1日(火)から
令和4年3月8日(火)まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学医学部教務課大学院係

《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
母性看護学, 慢性看護学, 精神看護学, 在宅看護学及び地域看護学の各領域合わせて若干名
- 2 出願期間
令和4年1月5日(水)から
令和4年1月17日(月)まで【消印有効】
- 3 入学者選抜方法
入学者の選抜は, 学力試験, 小論文, 面接及び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 令和4年2月3日(木)
②試験科目及び時間等

時間	試験科目等
9:00~10:30	小論文
10:45~12:15	専門科目(※)
13:15~	面接

- ※専門科目の出題について
・修士論文コース: 志願する専攻領域
- 4 合格者発表
令和4年2月9日(水)正午ごろ
 - 5 入学手続期間
令和4年2月10日(木)から
令和4年2月16日(水)まで
 - 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係

愛知医科大学医学部

造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座開講式(2021.12.27) 举行

造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座 連携教授

日本造血細胞移植データセンター センター長 熱田 由子

日本造血細胞移植データセンター(JDCHCT)は、国内の造血細胞移植および細胞治療に関するアウトカム情報を医療機関から収集・管理し、アクティビティの把握に努めています。それと同時に、収集したアウトカム情報の国内外における様々な研究への利用を推進すべく、日々活動しています。アウトカム情報とは、個々の患者のベースライン情報、疾患に関する情報、治療後の臨床経過に関する情報から成り、これらが集積されたものをレジストリと呼びます。国内の造血細胞移植および細胞治療の実施状況を正確に把握できることは、適切な政策介入のための重要なインフラであり、また、レジストリ研究の成果は、治療ガイドラインを制定する知見となります。

造血細胞移植は造血器腫瘍(白血病やリンパ腫など)や再生不良性貧血、先天代謝異常、原発性免疫不全など多くの難治性疾患の治療を目指して行われる治療法であり、近年では、国内で年間約6,000例実施されています。更に近來、造血器腫瘍に対する遺伝子改変T細胞治療などの新規免疫細胞治療の発展がめざましく、JDCHCTのレジストリは、2019年に造血細胞移植レジストリから造血細胞移植・細胞治療レジストリへと拡大しました。

1993年に日本造血・免疫細胞療法学会(JSTCT)により造血細胞移植レジストリが開始され、運営は、開始当初には愛知県がんセンター疫学・予防部で、その後2003年より名古屋大学予防医学教室(浜島信之前名古屋大学YLP教授)で行われました。2006年以降は、日本骨髄バンク、臍帯血バンク、日本小児血液がん学会、JSTCTがそれぞれ実施していた調査の一元化レジストリとして、名古屋大学医学部造



祖父江理事長始め関係者と記念撮影
(中央:熱田センター長)

血細胞移植情報管理・生物統計学寄附講座(鈴木律朗准教授)により運営が行われました。2014年には「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行され、以後悉皆性の高い調査がJSTCTとJDCHCTによって実施され、現在、データ管理を担うJDCHCTでは約12万件の造血細胞移植情報を管理しています。

2021年、愛知医科大学とJDCHCTによる、愛知医科大学医学部造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座が開講され、連携教授を拝命致しました。造血細胞移植と細胞治療、そしてレジストリサイエンスの更なる発展を目指し、教育にも力を尽くして参ります。年末に名古屋大学大幸キャンパスから愛知医科大学へオフィスを移し、この1月より約20名のスタッフ皆と研究棟4階からの素晴らしい景色に気持ちを新たに、レジストリデータの管理と利活用推進の活動を開始しております。JDCHCTとして、連携講座として、より一層発展していくことができるよう、邁進していきたいと存じます。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座に改称

令和4年1月1日付で本学医学部「耳鼻咽喉科学講座」の名称を「耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座」に、病院診療科「耳鼻咽喉科」の名称を「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」に名称変更しました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域は、耳、鼻、口腔・咽頭、喉頭、気管、食道、頭頸部と広範囲にわたる領域において新生児から老人まで多彩な疾患の診療・研究を行っている領域です。国内外においても講座名や診療科名称を変更する大学・医療機関が増

加傾向にあり、本学も一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会（現：一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）の名称変更を契機に本格的に検討し、決定しました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域における悪性疾患や、気管食道外科領域の外科治療を行う比重が増加したこと、外科系診療科であることを広く一般患者の皆様、医学生、医療従事者等にアピールし、耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療・研究を推進していきます。

医学教育分野別評価年次報告書作成のためのFD開催

医学部では、令和元年9月に医学教育分野別評価を受審し、令和3年8月に受審後初めての年次報告書を作成し、日本医学教育評価機構（JACME）に報告しました。年次報告書作成にあたり、6月にFDを開催し、領域毎に現状を把握し原案を作成することに協働していただきました。

令和3年11月18日（木）に、年次報告書作成に関して、本年度2回目のFDが開催されました。今回のFDでは、作成した年次報告書の確認、今後の領域毎に必要な情報・活動を確認することを目的としました。当日は、祖父江元 学長、若槻明彦医学部長のあいさつの後、領域毎に8グループに分かれ討議が行われました。

その後、大学本館2階のたちばなホールへ集合し各領域から現状と今後の方針を発表していただき、全員で情報を共有しました。領域によっては議論す

る内容が多岐にわたり、時間が不足するほどの意見交換がなされました。

年次報告書は、毎年提出しますが、その報告書自体はJACMEで評価されることはありませんが、2巡目の分野別評価を受審する際に、これらの年次報告書の実績をもとに記載する必要があります。改善が必要な部分はもとより、特色として挙げられている点も更に良くするためにどのように改善しているのかを今後提示する必要があります。

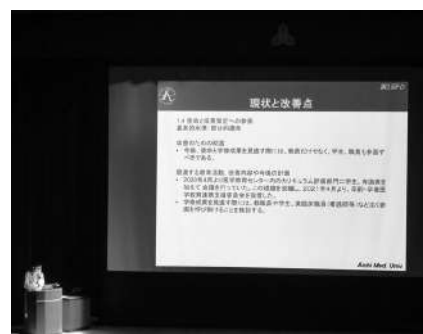
前回受審時は、必要な委員会などを設置する、開催することで、評価対象となっていました。次回受審時はどのような活動をしているのかが問われるようです。こういった委員会活動を単に報告書作成のためだけではなく、今後の医学部組織・教育体制の改善に繋げていくことが期待されます。



グループ討議の様子



たちばなホールでのグループ発表の様子



医学教育者のためのワークショップ開催 「ICTを活用した新たな教育を目指して」

今年度の医学教育者のためのワークショップ（学内ワークショップ）が、令和3年12月11日（土）・12日（日）に開催され、新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続きZoomを使用したWeb開催となりました。テーマは昨年度と同様に「ICTを活用した新たな教育を目指して」としました。

新たに赴任・昇任した教員を中心に幅広く参加者を募り、19名の先生方に参加いただきました。祖父江元 学長、若槻明彦医学部長、早稲田勝久医学教育センター長からのあいさつの後、研修開始となりました。使用したツールは、①オンライン会議システム (Zoom)、②オンライン上ホワイトボード (Google Jamboard)、③教育授業支援システム (AIDLE-K) です。ICTをフル活用してスモールグループ・ディスカッションも行い、様々な講座の教員によって活発な意見が交わされました。

本ワークショップの目的は、本学の医学教育の目標を再認識し、建学の精神を基に、どのような医学教育がこのコロナ禍に必要とされているのかを議論することです。1日目は、「現在の愛知医科大学の教育の課題」についてまず議論が行われました。コンピテンス・コンピテンシー、そのマイルストーンを共有し、大学全体が同じ方向を向き、教育をすることの重要さと大切さが議論されました。また、自治医科大学医学教育センター副センター長の松山泰准教授をお招きし、「学習者の評価」について講演していただきました。



ワークショップ参加者

2日目は、プロフェッショナリズムという概念や考え方を中心に議論や情報共有が行われました。また、コロナ禍における基礎医学実習例として、解剖学講座の内藤宗和教授により解剖学実習の現状について共有がありました。

振り返りでは、基礎医学と臨床医学の枠を越えて意見交換ができ、他科の先生の意見や考え方を知ることができて有意義であったとの感想が多くありました。また、多くの女性医師の参加（19名中10名）もあり、対面のみならずWeb開催も交えながらこのようなワークショップ・研修を開催する有用性を再確認しました。参加者の皆さまのご協力もあり、オンライン上での様々なツール使用に問題なく、滞りなく行うことができ、無事にワークショップを終了することができました。ご協力いただきました皆さまに深く感謝申し上げます。

地域イベントに学生ボランティアサークル HIAMUが参加

令和3年11月6日(土)にWeb会議システムZoomを用いて、瀬戸市・尾張旭市近郊の医療ケアを必要とする子どもと家族が楽しめるイベント「第8回もーやっこジュニアの広場」が開催され、本学の学生ボランティアサークル HIAMUが参加しました。【写真】

このイベントは、瀬戸旭医師会を始め、瀬戸市の終訪問看護ステーション及び近隣等の在宅ケア事業所、本学の学生ボランティアサークルHIAMUや他の大学生が中心となって、普段外出が難しい医療が必要な子どもたちやその家族と一緒に楽しみを分かち合える場を作り、小児の在宅医療ケアを学ぶ機会を設けることを目的としてスタートし、今回で8回目の開催となりました。本学からは、在宅看護学の佐々木裕子准教授を始め、小児看護学の深谷基裕准教授、HIAMUの学生5名が運営スタッフとして参加しました。子どもたちやその家族がWebでも楽しんでもらうことができるように意見やアイデアを出し合い、イベントの準備を進めてきました。

今回は、年齢層が低いお子さん向けの音付きの「紙芝居」、どの学年でも盛り上がる「イントロクイズ」、更にご兄弟のお子さんやご家族の方も参加できる「家にあるものしりとり」などのイベントを学生が中心となって運営しました。HIAMUの代表を務める医学部5学年次生の中村文香さんから「Zoomという限られた環境の中でしたが、お子さんに楽しんでもらえるようにアレンジを加えたり、逆にお子さ



んやご家族の方々も様々な工夫をして自分の思いや感想をレスポンスしてくださったりと、以前の対面イベントとは違った新たな発見が沢山ありました。画面越しではありましたが、お子さんやご家族の方々の反応を見ることができて、私自身も一緒に楽しむことができました。今回のイベントで子ども達との接し方を学ぶことができたのは自分自身の中ではとても貴重な機会でした。こうした機会を与えてくださった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。」と感想がありました。

医師国家試験CBTトライアル試験実施

令和3年12月1日（水）に医師国家試験CBT（computer based testing）トライアル試験が実施されました。現在、医師国家試験のCBT化について検討が進められており、厚生労働科学研究「医師国家試験CBT化に向けた研究」に本学も協力し、トライアル試験が実施されました。

試験は、大学本館5階マルチメディア教室で午前9時から午後3時まで実施されました。医学部の5、6学年次生を対象に受験希望者を募り、5学年次生25名、6学年次生5名が受験しました。受験後の学生アンケートでは、「動画や音声から、疾患や病態を判断する問題が初めてだったので難しかった。」

「動画の問題は実習等で経験していないと解けない。」、「今まで以上に多くの身体診察を経験することが必要。」、「薬や検査のオーダーを経験できたら、治療や検査に実感を持って学修できる。」といった意見がありました。

CBT化後の医師国家試験では、より実践に則した、実臨床に近い形式の問題が多く出題され、ますます臨床実習の重要性が高まってくると考えられます。本学はトライアル初年度から参加することができ、今後の国家試験の動向を確認することができました。今後のカリキュラム改革・授業内容の改善に繋げ、国家試験のCBT化に備えていきます。

オンライン医療英語実習コース体験記

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、学術国際交流協定大学等との学生の交換留学は中止となりました。そこで、英国のレスター大学教員のMegan Murray氏を講師に迎え、OSCEの中でも医療面接に焦点を当て、英語による医療面接のノウハウをオンラインで学ぶ実習コースを実施しました。

令和3年10月25日（月）を初日とし2週間にわたり6日間行い、16名の学生が参加しました。このコースを終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。



オンライン講義を行うMurray氏

医学部1学年次生 石郷 萌愛

唯一の1学年次生として参加して、先輩方の医療知識の多さや患者さんから症状を聞いたあとの質問内容などに圧倒されました。自分も数年後には先輩方のようになりたいと強く思いました。英語問診の練習ができるのはもちろんですが、先輩方から受けた刺激がよい経験になったと思います。

6日間で段階を踏んでの練習だったので英語力に関係なく誰でも、毎日自分がステップアップしているのが感じられると思います。最終日には、実際に模擬患者さんに英語で問診をし、その結果が届いたときには、達成感や充足感を得られました。

医学部2学年次生 田中 透

コロナ禍で留学の機会も無く、英語でコミュニケーションを取ることがほとんど無い中、今回の様なプログラムは大変有意義なものであると感じました。

私は留学などの経験は無いため、海外の先生と意思疎通が取れるのか初めは心配しておりましたが、先生が私の英語力に合わせて対応して下さいのおかげで、英会話の難しさだけでなく、言いたいことが伝わった時の喜びや楽しさも感じる事ができ、多忙でありながらも充実した講義を受けることができました。これからの英語学習における課題と、よりネイティブに近い英語力を身に着けるという目標を与えてくれた今回のプログラムに感謝し、今後の英語学習を進めていきたいと思っています。

医学部3 学年次生 中村 天音

私は他国の医療に興味があったため、このプログラムに参加しました。医療面接はイギリスやアメリカなど、他国ではとても大切にされていて、医療面接の中で患者とコミュニケーションを図ることは基本とされています。しかし、日本ではあまりなじみがなく、問診として紙に記入する形となっています。そのため、基本であり一番大切なことを学ぶことのできるこのプログラムはとても勉強になりました。英語を話すことがあまり得意ではないため、このプログラムに参加することを少し躊躇しましたが、参加してとても良かったと思っています。

医学部4 学年次生 七浦 暖

海外旅行に行けない期間が長く続く中、オンラインでイギリスの大学の講座を受けられると知り、いい機会だと思い参加しました。慣れない英語のリスニングに苦勞し、自宅受講のため気軽に友達に聞くことができず、このタイミングで当てられたらどうしようと不安に思う場面も多くありましたが、おかげで必死に授業を聞くようになり、むしろ良かったかもしれません。先生の英語が分からなくても聞き返せばゆっくり分かりやすく話してくださり、私の文法がボロボロの英語も理解してくださいました。

コースの最後にはイギリス人の模擬患者さんに医療面接を行います。最初は英語で医療面接ができるはずないと思っていましたが、授業を重ねるごとにできるようになりました。大学が受講料を半分以上負担してくれたのでお得に受講することができました。

医学部5 学年次生 阿藤 里帆

臨床実習で英語での診察を見学したことをきっかけに英語を頑張ろうと思っていたため、良い機会と考え、迷わず参加を決めました。

実際に参加して、臨床実習と本コースの受講・予復習を両立することは大変でしたが、これは気合で乗り切りました。また、私は留学等の経験がなく、英語での授業についていけるか心配でしたが、先生は分かりやすく楽しい授業をしてくださり、十分に理解することができました。最終日はイギリスの模擬患者さんに医療面接を行い、後日フィードバックがいただけて、とても励みになりました。



看護学部体験入学開催

令和3年12月24日（金）看護学部実習室において「看護学部体験入学」が開催されました。【写真】この企画は高校生が看護学部における講義を体験することにより、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めていただくことを目的として開催しています。

当日は、20名の高校生が参加し、地域看護学の浅野いずみ講師による体験授業（未来の健康のために「今から身につける食習慣！」）及び体験演習（食習慣を振り返ってみましょう）が行われました。体験演習では、食事バランスガイドを用いて前日の自分の食事を振り返ることで日頃の食生活の傾向を各自が認識し、その後、望ましい食習慣についてグループで話し合いを行いました。お菓子のカロリーの高さや、それを消費するための運動量の多さを学習したことから、間食について考えるグループが多くみられました。

続いて、アシスタントを務める看護学部生と一緒にドクターヘリとドクターカーを見学しました。参



加した高校生からは、「食生活についても考えることができたので間食する日などを決めて生活習慣を見直したいです。」「普段見られないようなドクターヘリとドクターカーの内部が見られてよかったです。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、自分の食習慣について考えることを通じて、看護学の一端を学ぶ有意義な体験入学となりました。

看護学部進路懇談会開催

令和3年12月20日（月）午後1時から、3学年次生を対象に「看護学部進路懇談会」が開催されました。

この企画は、履歴書書き方講座応用編、卒業生による体験談発表、懇談会で構成しており、卒業生による体験談発表では、看護師、保健師、助産師として活躍する卒業生4名にご協力いただき、「就職・進学先を決定した動機やエピソード、現在の看護実践の状況、仕事を含めた生活等」についてリレー方式でお話をいただきました。

懇談会では、卒業生に職種別の懇談室へ移動いただき、3学年次生は自分の希望する職種の卒業生から様々なアドバイスを受けることができました。

開催後に行ったアンケートでは、「自分が行きたい病院のことが聞いてよかった。」「実際に現場で働かれている助産師さんのお話が聞いて、今後の活動の仕方が少し明確になったのでありがたかった。」「わかりやすく、丁寧に説明していただけたので、想像が付きやすかった。国試の勉強方法についても話していただけて、とても参考になった。」などの意見が寄せられました。



体験談発表



職種別の懇談会

マネジメントリーダー・スペシャリストリーダー認証交付式挙行

令和3年12月1日（水）午前10時から中央棟3階共同カンファレンスルームにおいて、マネジメントリーダー及びスペシャリストリーダー認証交付式が執り行われました。

平成28年度にマネジメントリーダーを導入し、6年目となりました。今年度は初めて看護部長がマネジメントⅥ、副部長がⅤを申請し、計14名が認定されました。看護管理者は、院内のチーム医療に留まらず地域全体の看護の質の向上の要となることが求められています。常に変化を恐れず、社会のニーズに対応した変革ができること、コミュニケーション力、チーム力が高く建設的な交渉ができること、部下・後輩の支援者として効果的な人材育成ができるとともに自己の能力開発に邁進することなど発展的に尽力されることを期待しています。

また、スペシャリストリーダーは令和元年度に始まり3年目となります。今年度は初めて副部長がスペシャリストⅥを申請し、スペシャリストⅤ更新者を含め20名が認定されました。先見性と広い視野を持ち、組織横断的に活動し、チーム医療を推進することができること、更にリーダーシップを発揮し、組



マネジメントリーダー認定者



スペシャリストリーダー認定者

織の変革者となり、地域へと発展的に活躍していくことを期待しています。

医療従事者向け新型コロナウイルスワクチン3回目接種開始

令和3年12月20日（月）から院内医療従事者向けに3回目の新型コロナウイルスワクチン接種が開始されました。1回目・2回目のワクチン接種体制同様にアナフィラキシー症状発生時の対応策や会場内の感染防止対策を徹底した上で実施しています。

また、令和4年1月中旬に愛知県から要請を受け、

2回目接種時から6か月経過した医療従事者に対する前倒し接種についても適宜進めています。

院内の多職種に渡る医療従事者のワクチン接種を速やかに完了させ、一般市民の皆さまに安心・安全な医療の提供に努めて参ります。

ナーシングフェスタ2021開催

令和3年12月4日（土）に「研究成果をつなぐ」をテーマとして、ナーシングフェスタ2021が開催されました。

これまで看護部では、看護専門職として看護ケアの質向上を目指し、毎年看護研究発表会を開催していましたが、令和元年度から看護の楽しさ・やりがいをつなぐお祭りの「ナーシングフェスタ」に改名し、今年度で3回目を迎えました。今年度もコロナ禍でありながら、Zoomのリアルタイム配信や「看護研究の成果を活かした部署での取り組み」などWeb視聴で開催することができました。

また、フェスタ企画の一つである第44回看護研究発表会は、LIVE配信で14演題の発表が行われました。参加者は、のべ600名程度あり盛況のうちに終了しました。



演題発表を行う看護部の谷口緋香瑠看護師

ナーシングフェスタを主催している井上里恵看護部長から「ナーシングフェスタの看護研究発表会では、興味深い研究結果がたくさんありました。自らが看護研究を行い、日々の看護実践に研究成果を役立てていることを実感しました。ナーシングフェスタの開催に当たり、ご協力いただきました皆さまに感謝します。」とのコメントがありました。

医療安全推進週間

～患者・家族の医療参加～

厚生労働省は、11月25日（いい医療に向かってGO）を含む1週間を「医療安全推進週間」と定めています。本院では、令和3年11月24日（水）から11月26日（金）の3日間、「安全♥大好き」をテーマにイベントが実施されました。

イベントでは、特設ブースを設け、ご来院の方への医療安全に関するリーフレットの配布や、「～私の部署の安全宣言～」と題した院内38部署の医療安全に対する取り組み紹介のポスター展示が行われました。

リーフレットは、「安全な医療を受けていただくためにご協力をいただきたいこと」の10項目をまとめたもので、患者さん・ご家族にお渡ししながら医療参加を呼び掛けました。

また、患者さんに対し、受診や検査等の際に職員



リーフレットによる医療参加の呼びかけ

からフルネームを名乗るよう言われたかどうかの聞き取り調査をしたところ、76.5%しか言われておらず、職員にとってその重要性を再認識する必要があることを示すものとなりました。

看護部 櫻川真由子看護師 DMORTスタッフとして活躍

令和3年7月3日（土）に静岡県熱海市で発生した伊豆山土砂災害において、26名（1名行方不明）と多数の方が被災されたことを受け、本院看護部の櫻川真由子看護師が、7月11日（日）から13日（火）まで、愛知県支部のDMORTスタッフとして活動に参加されました。DMORTとは、Disaster Mortuary Operational Response Teamで「災害死亡者家族支援チーム」の略称であり、災害直後から死亡者の家族支援を行うことを目的としています。

活動に参加された櫻川看護師から「活動場所は検死検案後の遺体安置所で愛知県警を通して静岡県警に派遣され、ご家族がご遺体と対面するにあたりDMORTスタッフが付き添いグリーフケアを行いました。また、災害拠点本部へ出向き行方不明者の捜索状況やDMAT・DPAT・保健所との連携を図ることができました。家族支援・グリーフケアには、活動するスタッフのメンタルにも影響を与えます。



活動スタッフとともに（右端：櫻川さん）

今回の活動は多くのDMORTスタッフである医師・看護師・医療従事者計12名が交代しチームで支え合いながら豊富な知識を活用することができました。被災地の早期の復興、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。」とコメントがありました。

愛知医大サービス株式会社愛知医大オリジナルグッズ新作紹介

愛知医大サービス株式会社では、事業の一つとして愛知医大オリジナルグッズの企画、販売を行っております。一向に治まらない新型コロナウイルス感染症の影響で大学のイベントが中止になり、特設販売活動も出来ない状況にあります。

そんな中で令和4年、新作としてキーホルダーを製作致しました。【写真】今まで、ご愛顧いただいていたドクターヘリバッジですが、よりご利用し易いようにキーホルダーに形を変えました。カラーも大学カラーのネイビーやブルーに加え、今回初めて病院カラーのグリーンもご用意しました。

是非一度、お手に取ってご覧ください。



<問合せ先>

愛知医大サービス株式会社

立石プラザ3階事務室 内線：14131

メディカルセンター防災訓練実施

令和4年1月20日（木）に愛知医科大学メディカルセンターにおいて、全職員を対象とした開院後初めての防災訓練が実施されました。新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、動画視聴等の机上訓練での実施となり、訓練には医師を含む計42名が参加しました。

訓練開始に当たり、羽生田正行病院長から「メディカルセンターとして、様々な防災と向き合い、きちんと整備し地域の方に貢献していく必要がある。今回の訓練で、是非防災に関して今一度考える機会としてもらいたい。」とあいさつがありました。

訓練内容は、「本院の防災設備」、「通報訓練」、「初期消火訓練」、「避難訓練」となっており、主に火災発生時を想定したものでした。自動火災報知機が作動した際の実音声の試聴、火災通報専用電話機での発信方法、消火器・屋内消火栓の設置場所や使用方法等を写真や動画で確認しました。また、消防署の防災DVD「高齢者福祉施設の火災対策マニュアル」を視聴し、自力困難な患者さんに対して毛布を使った搬送方法なども紹介され、本院には療養病棟もあり、火災発生時には類似した状況が想定でき参考となりました。

訓練の最後では、災害対策委員長の勝野敬之先生より「現在、メディカルセンターの防災マニュアルについても見直しをしており、災害時に職員が適切



あいさつする羽生田病院長



机上訓練の様子

で円滑に対応できるよう整備していく。」とあいさつがありました。

また、3月には令和3年度第2回防災訓練として同内容を実施し、一度も参加できなかった職員のために訓練内容の動画を配信する予定です。インフラ等まだ整備が不十分な点は多いですが、課題を明確にし、今後実働訓練の実施などより実用性のある訓練を実施することで、職員の防災に対する危機意識を高めて参ります。

解剖学講座 有村和人助手 日本解剖学会功労賞受賞

解剖学講座の有村和人助手【写真】が、令和3年3月27日（土）に、Web方式で開催された第126回日本解剖学会総会・全国学術集会において、「日本解剖学会功労賞」を受賞されました。

これは、解剖学の教育・研究における解剖学技術職員としての長年の貢献に対し贈呈されるもので、有村助手は、勤続20年以上で認定解剖組織技術者の資格を有する職員として表彰されました。

受賞された有村助手からは、「職域の学会から評価をいただき、また、多くの先輩方にご指導を受けました。大変ありがたく感謝しております。」との感想がありました。



生理学講座 池上啓介講師 第19回（2021年度）日本時間生物学会学術奨励賞受賞

生理学講座（旧生理学第1）の池上啓介講師【写真】が、令和3年11月21日（日）に沖縄県那覇市で開催された、日本時間生物学会において、「第19回（2021年度）日本時間生物学会学術奨励賞（基礎科学部門）」を受賞されました。

これは、池上講師がこれまで取り組んできた「脊椎動物における光周性および概日生理機能制御機構の解明」の研究が、41歳以下の博士号取得後11年以内の日本時間生物学会員の中で、時間生物学の発展に大きく貢献し、今後活躍が期待できるものとして評価されたものです。

受賞された池上講師からは、「この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。これも皆さま



のご指導ご鞭撻のおかげであり、ユニークな研究を可能にいただいた愛知医科大学を始め名古屋大学、近畿大学には感謝しております。今後も一層科学の前進に向けて精進して参ります。」との感想がありました。

内科学講座（肝胆膵内科） 井上匡央助教 2021年度日本消化器内視鏡学会学会賞受賞

内科学講座（肝胆膵内科）の井上匡央助教【写真】が、「2021年度日本消化器内視鏡学会学会賞」を受賞されました。

これは、日本消化器内視鏡学会の英文機関誌であるDigestive Endoscopy（Impact factor: 7.559）に掲載された「Intraductal placement of a fully covered metal stent with a long string for distal malignant biliary obstruction without endoscopic sphincterotomy: Prospective multi-center feasibility study」が優れた論文として高く評価されたものです。

受賞された井上助教からは、「この度は大変名誉ある賞をいただき身の引き締まる思いです。改めま



して、研究遂行並びに論文執筆にご助力いただいた全ての先生方に厚く御礼申し上げます。引き続き、微力ながら本学の発展に貢献できますよう精進して参ります。」との感想がありました。

中央放射線部 大澤充晴診療放射線技師 第37回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会 優秀ポスター賞・銀賞受賞

中央放射線部の大澤充晴診療放射線技師【写真】が、令和3年11月25日（木）から27日（土）の3日間にわたり、福岡国際会議場及びオンラインによるハイブリッド方式にて開催された第37回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術集会において、「優秀ポスター賞・銀賞」を受賞されました。

これは、大澤技師が発表したポスター演題「金属アーチファクト低減アプリケーションの検討～メーカー間の比較～」が、同学会において高く評価されたものです。

受賞された大澤技師からは、「この度は、栄えある『優秀ポスター賞・銀賞』をいただきましたこと、

とても栄誉のあることと感動しております。これもひとえに多くの皆さまに支えていただき、ご指導いただいたおかげです。本当に心から感謝申し上げます。今後もより一層、臨床に有用な技術の研究を積み重ねて参ります。変わらぬご指導とご鞭撻

をお願い申し上げます。この度は誠にありがとうございました。」との感想がありました。



教育・研究・診療の基盤整備事業募金寄附者ご芳名（敬称略）

教育・研究・診療の基盤整備事業募金にご協力いただき、心より御礼申し上げます。

ご寄附をいただいた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

（平成30年4月1日～令和3年12月31日現在）

募金総額：371,648,930円 募金者数：個人 213件、法人・団体 33件

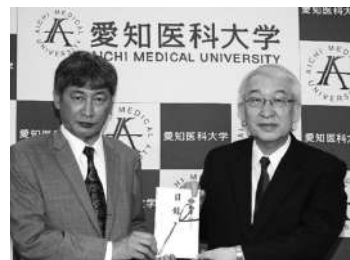
<個人>

浅井 和子	足立 義一	石川 俊一	石島 正嗣	井田 雅章	市川 嘉一	伊藤 壽美
伊藤 后子	今井 紀子	岩田 裕次	上野 隆彦	宇佐美覚了	宇佐美公子	内田 稔也
内海 眞	戎井 浩二	大須賀友晃	大野 則和	岡田 太郎	岡本 利一	海原 彰二
勝野 正英	加藤 純子	加藤 豊文	加藤 正治	加藤 庸子	金桶 陽	川合 尚
川崎 恭典	神戸 康秀	岸本 知樹	金 節子	木村 光利	久野 健一	久野 里佳
黒木 玲子	幸野 照	小島 順司	小杉 将仙	小塚 聡	後藤 雄州	後藤八千代
後藤 淳	小林 博文	小林 史樹	小林 良太	佐井 紹徳	齋藤 庸男	齋藤 照男
才村 弘也	坂本真理子	佐々木拓次	佐藤千代香	柴野 英典	柴山 始久	嶋吉 敏文
清水 宗久	清水口彩加	杉本 泰洋	鈴木 泰子	千田 憲一	祖父江 元	高田 勝
高田麻哉子	高橋 進	高橋 孝子	竹田 幸祐	田中 一字	田中 信彦	田中 元也
田邊 和彦	番井 利恵	塚本 芳春	都築 史恵	土居 聡	堂森 丈正	遠山美智子
富田 幸嗣	富田 裕一	中島 隆世	中島 鉄夫	仲谷 宗裕	中野 久美	中村 悟己
中山 貴子	西山 耕	野場 万司	早川千代子	林 和子	林 博子	林 嘉輝
肥後 夏月	樋上 泰成	平野 達也	深井 健一	福智 寿彦	藤林 孝義	藤原 祥裕
二村 真秀	古岡 邦人	前田 一成	増岡 尚子	松平 仁	三浦久美子	水谷 正子
村上 恒久	村松 忠	森川 晋吾	森田 絵万	柳原 崇	矢野浩一郎	山田 大介
山本 千廣	若槻 明彦	渡辺 貴昭	渡邊 慎			

（匿名 77件：五十音順）

<法人・団体>

一般財団法人愛知医科大学愛恵会	愛知医科大学医学部父兄後援会
愛知医科大学看護学部父母会	一般社団法人愛知医科大学同窓会
愛知医大サービス株式会社	安藤建設株式会社
医療法人社団京愛会	医療法人幸会
医療法人如水会	中部連合読売会 ※
中尾産業株式会社	ネットワンシステムズ株式会社
医療法人福智会	医療法人美衣会衣ヶ原病院
株式会社山下設計	医療法人る・ぶてい・らぱん



中部連合読売会からの贈呈

（匿名5件：五十音順）

寄附申込みに当たりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

教育・研究・診療の基盤整備事業募金寄附者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（教育・研究・診療の基盤整備事業募金）においても掲載しています。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



島袋 修一

学位授与番号 甲第609号

学位授与年月日 令和4年1月13日

論文題目：「Improved detection of donor-specific HLA-class II antibody in kidney transplant recipients by modified immunocomplex capture fluorescence analysis (改良型 immunocomplex capture fluorescence analysisを用いた腎移植におけるドナー特異的HLA class II抗体検出の改善)」



杉山 浩一

学位授与番号 乙第412号

学位授与年月日 令和3年11月18日

論文題目：「Association between body mass index and severe infection in older adults with microscopic polyangiitis: a retrospective cohort in Japan (高齢ANCA関連血管炎患者において診断時の低BMIはその後の重症感染症発症と関連する)」

研究助成等採択者

◇公益財団法人安田記念医学財団 癌看護研究助成

・氏名 中村正子 (看護学部・講師)
研究題目 ICTを活用した難治性がん患者における緩和ケアと腫瘍学が統合された看護師の学習モデル構築への実態調査
助成金額 500,000円

◇公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団 疾患別指定研究助成

・氏名 三嶋廣繁 (感染症科・教授)
研究題目 COVID-19感染症患者における後遺症と抗体価 - 特にスパイクタンパクとヌクレオカプシドに対する抗体 - に関する臨床研究
助成金額 60,000,000円

◇公益財団法人豊秋奨学会 研究費助成

・氏名 池上啓介 (生理学講座・講師)
研究題目 眼圧リズム形成の分子制御機構の全容解明
助成金額 2,400,000円
・氏名 佐藤啓 (病理診断科・講師)
研究題目 リンパ球豊富型およびリンパ球減少型古典的ホジキンリンパ腫の発生機構の解明
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人テルモ生命科学振興財団

研究開発助成金
・氏名 高村祥子 (感染・免疫学講座・教授)
研究題目 肝細胞の生存・死滅を左右する免疫応答の関与と決定因子の同定
助成金額 2,000,000円

◇せりか基金 せりか基金賞

・氏名 中村亮一(内科学講座(神経内科)・講師)

研究題目 リポート伸長変異を含む構造多型の網羅的解析によるALS病態関連遺伝子の探索

助成金額 3,000,000円

◇一般社団法人全国ローヤルゼリー公正取引協議会
ローヤルゼリー学術研究助成金

・氏名 松下宏(産婦人科学講座・准教授)

研究題目 閉経後女性における認知機能に対するローヤルゼリーの効果の研究

助成金額 6,000,000円

◇一般財団法人愛知健康増進財団
医学研究・健康増進活動等助成事業

・氏名 松下宏(産婦人科学講座・准教授)

研究題目 食品由来成分による閉経後骨量減少に対する抑制効果の研究

助成金額 500,000円

◇公益財団法人鈴木万平糖尿病財団
若手研究者調査研究助成

・氏名 姫野龍仁(内科学講座(糖尿病内科)・講師)

研究題目 糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch関連の異常と再生機構の破綻

助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人がん研究振興財団
がん研究助成金(課題B)

・氏名 中村正子(看護学部・講師)

研究題目 在宅療養に移行するがん患者を支える、地域のがん看護管理者に対するICTを活用した「緩和ケアと腫瘍学の統合」の看看連携学習モデル構築への実態調査

助成金額 500,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第28回一般社団法人日本神経内視鏡学会	令和3年11月18日(木)・19日(金)	渡邊 督
・第54回日本小児外科学会東海北陸地方会	令和3年12月5日(日)	金子健一郎
・第28回日本精神障害者リハビリテーション学会	令和3年12月11日(土)・12日(日)	兼本 浩祐

第28回一般社団法人日本神経内視鏡学会

令和3年11月18日(木)・19日(金)、ウインクあいちにおいて、名古屋第二赤十字病院の永谷哲也先生を会長とし、脳神経外科学講座の渡邊督准教授が副会長を務め、第28回日本神経内視鏡学会が開催されました。

会には、1,300人の参加がありましたが、新型コロナウイルス流行の谷に当たる時期の開催でしたので、500名以上の先生に現地参加していただきました。久しぶりに直にお会いでき、直接議論ができたのではないかと思います。

本会のテーマが「神経内視鏡の文化を紐解く」であり、内視鏡の特性を利用して、患者にやさしく根治的な治療をめざすために、経験のある施設、術者

脳神経外科学講座・准教授 渡邊 督から、手術の哲学、考え方、後進の指導などを中心に多岐にわたる内容の発表がありました。シンポジウム101演題、一般口演81演題の合計182演題の発表がありました。我々のチームは内視鏡を使ったあらゆる脳神経外科手術を行っていると自負して、シンポジウムのテーマは工夫を凝らして、ユニークなものとなりました。皆さまのおかげで、非常に活気のある、有意義な学会が開催できたのではないかと思います。

本会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきましたことをこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

第54回日本小児外科学会東海北陸地方会

令和3年12月5日(日)に、外科学講座(消化器外科)の金子健一郎教授(特任)を会長として、第54回日本小児外科学会東海北陸地方会が開催されました。

元々は令和2年に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため1年延期したところ、1年経ってもコロナ禍は収まらず完全Web開催としました。本地方会は平成27年に東海地方会と北陸地方会が合同して東海北陸地方会となり、この地区の100名程の小児外科医がほぼ全員参加する貴重な会です。

Web開催という制約があるため、演題は自然に

外科学講座(消化器外科)・教授(特任) 金子健一郎集まるだけにして、開催1週間前からネット上でポスター閲覧可能とし、当日は1題に時間をかけることにしました。通常の3分の2程度の22演題が集まりました。座長に若手を抜擢し、討論者にはベテランを配置して、演題が深掘りされるように采配し、当日は聴衆者からも発言可能にしました。狙いは当たり、Webながら白熱した研究会となり、終了後に若手からもベテランからも勉強になったという声をいただきました。

本学会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第28回日本精神障害者リハビリテーション学会

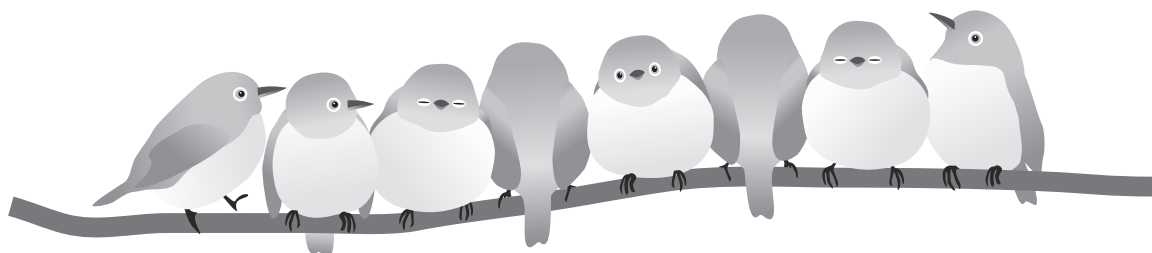
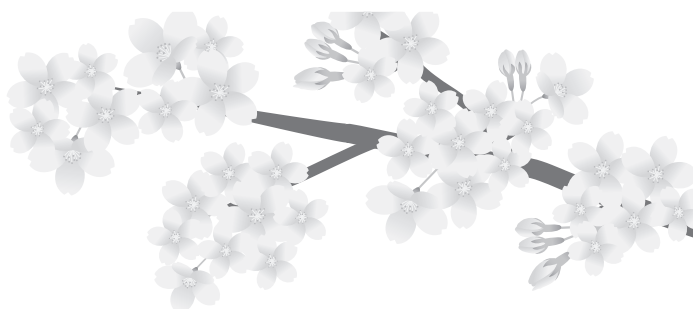
令和3年12月11日（土）・12日（日）に、医療法人福智会すずかけクリニックの福智寿彦院長を大会長、本学精神科学講座の兼本浩祐教授及び茅喜田恵子本学名誉教授を副大会長として、第28回日本精神障害者リハビリテーション学会がWeb方式にて開催されました。

福智大会長のリーダーシップで行われた今大会の目玉はなんといっても異障害コミュニケーションと銘打ったいくつかのシンポジウムにあったと思われます。『友達止めた』という聴覚障害者の監督がADHDの友人とのコミュニケーションの齟齬を突き詰めた、しかし、ユーモラスな映画の上演もあり、また、その監督もシンポジウムに参加されての活発な議論が行われました。

自分の講演の手前みそで申し訳ないですが、宇宙

精神科学講座・教授 兼本 浩祐
戦艦やまとで行くのか、スタートレックで行くのかを、私たちは集団をつくる時にいつも考える必要があります。つまり、乗組員がお互いに一つの心になって分かりあい、阿吽の呼吸で一丸となって進むのか、そうではなくて、お互い分かり合えないところのある者同士が、しかし、同じ一つの船を操舵して前に向かって一緒に生きていかざるを得ない運命共同体として、どう妥協し、どう進んでいけばいいのかをきちんと議論しながら、躊躇い躊躇い進んでいくのか。少なくとも今大会は、私の印象ではスタートレック方式で進んでいった学会でありました。

本学会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきましたことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



「教育・研究最前線」

Sustainableな皮膚科学を目指して

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

皮膚科学とは、皮膚に関する全ての疾患を扱う診療科です。また、皮膚という臓器を通して全ての他診療科と診断・治療の関わりを持ちます。皮膚科とは正に「皮膚センター」であり、総合診療であると思っています。

皮膚科の卒前教育について、講義では皮膚に現れるマクロの病変（皮疹）と病理学的所見を頭の中で結び付けられることを目標に、様々な皮膚疾患について講義するとともに、全身疾患と皮膚との関連や皮膚科学研究の最前線についても触れられるように指導しています。クリニカル・クラークシップでは、病変が容易に観察できる診療科の特性を活かして、患者さんへの問診、視診、触診を実際に行ってもらいながら診断・治療について考えてもらえるよう、実践的な実習を行っています。

卒後教育では、初期研修医にはどの診療科に進んでも経験が役に立てるよう、common skin diseaseを含めた外来、病棟実習を、皮膚科専攻医に対してはプログラムに基づき大学病院、研修施設での研修を通じて基本的な診察から、小手術、抗がん剤の使用、生物学的製剤の使用など最先端の皮膚科治療も経験してもらいます。また、女性医師が多いことから、結婚、妊娠、出産など様々なlife eventがあってもキャリアが継続できるように勤務形態、研修の工夫を通じて、教室としてsustainableな皮膚科学が

皮膚科学講座・教授 渡邊 大輔
実践できるように取り組んでいます。最近では国立がん研究センター、静岡がんセンターとも提携して皮膚外科医の育成も積極的に行っています。

【世界に発信する医学研究】

前述のように、皮膚科学は守備範囲が広く、全てを網羅するのは困難です。愛知医科大学皮膚科では、皮膚感染症（ヘルペスウイルス感染症、パピロマウイルス感染症）、発汗異常（多汗症、無汗症）を臨床、研究の軸として、様々な学会発表、論文報告を行ってきています。また、新規の抗ヘルペスウイルス薬、診断キット、帯状疱疹ワクチンや多汗症治療薬などの開発にも携わってきています。

なお近年、皮膚悪性腫瘍での免疫療法、乾癬やアトピー性皮膚炎での生物学的製剤やJAK阻害薬の使用など、皮膚科学の治療は目覚ましく進歩しています。本院皮膚科では抱負な症例を活かし、このような疾患での臨床研究も行い、情報発信をしています。

【部署からの一言】

前述のように皮膚科は、若い医師の育成とともに、女性医師の勤務しやすい、sustainableな職場づくりにも努めています。また、年2回の病診連携の会も行い、近隣の病院、クリニックの先生とも情報共有をしています。今後も、地域医療の中核として、高度で良質な医療を提供したいと考えていますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



医局員集合写真



病理検討会

面白い！泌尿器科学

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

患者さんに触れ、診て、傾聴、共感をし、治療に当たるのが「医療」です。「医学」とは、過去から学び、今を解釈し、未来へ繋げる学問です。常に恒久的であり、再現性が求められます。医学教育とは、「医療」と「医学」を教える「医療教育」かつ「学問研究」であることが必要です。「医学」は、教科書や論文で学べますが、「医療」は、経験すること、時には失敗することでしか学べません。よい経験には、適切な環境が重要です。一人の経験を皆の経験にすることができれば理想的です。本院泌尿器科では、学部生、研修医、専攻医の教育に当たり、よく話すこと、議論すること、丁寧に掘り下げること、今後を皆で考えることを大切にしています。経験、情報の共有、議論することで自らの経験へ定着させることができます。そして、疑問が生まれます。エビデンスやガイドラインが重視される時代となりました。世界基準とは何かをいくらかでも知ることができます。ただ、それを鵜呑みにするのではなく、解釈し、議論する姿勢が大切です。解明されないことに関しては必ずと仮説が生まれます。そして、それが面白いのが、成長に繋がります。本院泌尿器科では、日々の臨床を通じて、こなす「医療」ではなく、常に探求できる「医療の中の医学」を持てる人材育成を目指しています。

【世界に発信する医学研究】

研究に当たり、正しい仮説を立てることも大事ですが、面白いのか、世の中の役に立つのかを大事にしています。世界と競えるのかを考えながら研究に当たる必要があります。

臨床研究においては、単施設から成果を出すのは難しくなりました。世界と競うには、オールジャパ

泌尿器科学講座・教授 佐々 直人
ンや多数の施設が協力して研究する必要性があります。本院泌尿器科では、積極的に全国の多数のアカデミア施設が参加する研究に参加しています。目の前の患者さんに適切な治療を行うことは当たり前です。そこに、未来の日本人のために生きるデータとして更に付加価値を付けることが大学病院の責務です。共同研究への参加を通して、他施設の医師とのコミュニケーションをとるチャンスが生まれ、未来の可能性を広げると信じています。アイデアも見方を変えることで、新しいものを創造できます。工学研究者や他分野とも連携し、人工知能を活かした研究を泌尿器科独自に進めています。

そして、未来の研究者も育成していく必要性があります。大学院生の確保、研究資源となる手術検体を学内のバイオバンクに保存し、未来の研究資源として蓄積しています。目の前にある利益でなく、永く未来にわたる泌尿器科よりの結果をご期待ください。

【部署からの一言】

泌尿器科診療の中心は、がん診療、結石、男性の排尿障害が中心でした。近年、泌尿器科医も女性医師が増加しています。（全国で新入局に占める女性の割合は20%です。）尿失禁や骨盤臓器脱といった女性に多い病気に女性医師が多く興味を持ってもらったこと、その社会的ニーズが増加したことにあります。令和3年に国内で生まれた日本人の子どもは、80万5千人程度と極端な少子化が進んでおります。不妊の40～50%は男性側が関与しているものと考えられ、この分野を担うのも泌尿器科です。泌尿器科は幅が広く、奥が深い、面白い診療科でございます。



医局員集合写真



カンファレンスの様子

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターは、2017年に設置されて以来、緩和医療専門医、精神症状の専門医、認定看護師、薬剤師など多職種からなる緩和ケアチームがコアとなり、栄養やリハビリテーションといった各部門と連携し、緩和ケアに取り組んでおります。

緩和ケアは、かつては抗がん治療が無効となった時から受けるものと考えられていましたが、WHOによって現在では“がんと診断された時から受けるべきケア”と定義されています。早期からの緩和ケアによりQuality of Lifeのみならず生命予後の向上も期待できることが科学的にも明らかにされています。痛みや呼吸困難といった身体症状のほか、精神的な苦痛や経済問題、家庭の問題といった社会的苦痛、そしてスピリチュアル



スタッフの集合写真

な苦痛など、様々な苦痛が緩和ケアの対象となります。

これからも愛知医科大学病院に通院中、入院中の患者さんの療養生活向上に、多職種チームで取り組んで参ります。

周術期集中治療部

周術期集中治療部【写真】は、中央棟5階の手術隣で全室個室の22床で運営しています。手術を受けられ全身状態の一番不安定な時期を安全に乗り切るための術直後の患者さんと、院内での急変で状態が不安定の患者さんを治療する場所です。

手術はいわば“意図された外傷”です。例えばがんを取り除くためにお腹を開けるということが行われます。体には相当の負荷、侵襲が加わります。その生体にかかる侵襲を、例えば指を切った時に自分の細胞で修復が行われ傷が治るように、自己の修復していく過程を手助けすることを行います。痛みがあるのでしっかり痛みをとる。十分酸素を取り込んで体全体に行き渡るように、呼吸や循環を安定させる。傷の治りをよくするよう十分な睡眠が取れるようにする。傷の修復が速



やかに行われるよう栄養をしっかりとる。24時間、休むことなく全身管理を行います。

全身状態が落ち着いたら一般の病棟に帰っていただきます。早く病棟に戻り、元気に退院していただくのがスタッフ全員の願いです。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

給与規程の一部改正

学校法人愛知医科大学給与規程の一部が改正され、メディカルセンターに勤務する職員に対して支給する地域手当の割合等が整備されました。

施行日は令和4年4月1日

旅費規程の一部改正

学校法人愛知医科大学旅費規程の一部が改正され、文部科学省からの指摘への対応、海外旅費支給基準の明確化等を行うため、必要な事項が整備されました。

施行日は令和4年4月1日

学際的痛みセンター規程の一部改正

愛知医科大学医学部附属学際的痛みセンター規程の一部が改正され、病院中央診療部の「痛みセンター」が「いたみセンター」に名称変更されたことに伴い、必要な事項が整備されました。

施行日は令和3年10月1日

組換えDNA実験安全予防規程細則の一部改正

愛知医科大学組換えDNA実験安全予防規程細則の一部が改正され、申請時に必要な書類が整備されました。

施行日は令和3年12月2日

「研究活動に係るデータ等の保存期間等について」の裁定

令和4年1月1日付で「研究活動に係るデータ等の保存期間等について」が理事長裁定され、研究データ等の保存について必要な事項が定められました。

医学研究科入試委員会規程の制定等

大学院医学研究科における入学試験に関する事項を審議する委員会を新たに設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年4月1日

【新規制定】

・愛知医科大学大学院医学研究科入試委員会規程

【一部改正】

・愛知医科大学大学院医学研究科委員会運営委員会規程

医学部の学科目及び講座に関する規程の一部改正等

医学部の「耳鼻咽喉科学講座」を「耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座」に、病院の「耳鼻咽喉科」を「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」に名称変更するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年1月1日

【一部改正】

・愛知医科大学医学部の学科目及び講座に関する規程
・愛知医科大学大学院医学研究科の研究指導及び講義等の担当教員に関する規程
・愛知医科大学病院規程

「医学研究に関する倫理講習会の取扱いについて」の一部改正

令和4年4月1日付で「医学研究に関する倫理講習会の取扱いについて」(医学部長裁定)の一部が改正され、倫理講習会の実施方法等が整備されました。

「看護学部における成績優秀な学生に対する学納金の一部減免について」の一部改正

令和4年4月1日付で「看護学部における成績優秀な学生に対する学納金の一部減免について」（学長裁定）の一部が改正され、減免の要件等が整備されました。

看護学部倫理規程の一部改正

愛知医科大学看護学部倫理規程の一部が改正され、倫理審査実施の手順等が整備されました。

施行日は令和4年4月1日

医療の質向上委員会規程の制定

愛知医科大学病院医療の質向上委員会規程が制定され、臨床指標等を活用し、医療の質を向上させることを目的とした委員会が設置されました。

施行日は令和4年1月1日

業務改善推進委員会規程の制定

愛知医科大学病院業務改善推進委員会規程が制定され、病院における業務改善を推進することを目的とした委員会が設置されました。

施行日は令和4年1月1日

高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する規程の一部改正等

病院における高難度新規医療技術を用いた医療の実施について、必要な事項を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年1月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院高難度新規医療技術を用いた医療提供に関する規程
- ・愛知医科大学病院高難度新規医療技術評価部門業務規程
- ・愛知医科大学病院高難度新規医療技術委員会規程

放射線安全管理規程の一部改正等

関係法令の改正に伴い、必要な事項を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院放射線安全管理規程
- ・巡視・点検に関する要領
- ・危険時の措置に関する要領

メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）の一部改正等

メディカルセンター訪問看護ステーションに勤務する職員数を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

【一部改正】

- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（医療保険）
- ・愛知医科大学メディカルセンター訪問看護ステーション運営規程（介護保険）

施行日は令和4年1月1日